IV-JAPAN

NEWS【NO. 9】2007.11.1 発行

1. JICA 草の根パートナー「職業訓練」事業

2007 年 10 月 5 日（金）に、第 1 期職業訓練の初級 2 ヶ月・中級 3 ヶ月のコースの（調理、縫製、理美容）の閉講式をヴィエンチャン都職業訓練センターにて実施しました。55 人の訓練生が修了証を受け取り、閉講式には、ヴィエンチャン都教育局長、JICA ラオス高島所長、当会代表理事冨永幸子が出席しました。

2007 年 6 月 1 日、JICA 草の根パートナー事業（2007 年 6 月～2010 年 5 月）として当会が JICA と受託契約を交わし、カウンターパートのヴィエンチャン都教育局と共に「起業・就業促進強化のための職業訓練事業（調理、縫製、理美容）」をヴィエンチャン都職業訓練センターにて 3 年間実施します。この事業の目的は、ラオス国内の無職及び技術を持たない人々及び障害者が職業訓練を受け、経済的自立を確立することです。3 年後に、当職業訓練を当会のカウンターパートであるヴィエンチャン都教育局にハンドオーバーすることを視野に入れているため、この 3 年間で職業訓練を運営・管理するためのヴィエンチャン都調整員、指導する各コースのトレーナーになるためのヴィエンチャン都職員の育成及び能力強化を実施していきます。訓練は、初級コース 2 ヶ月、中級コース 3 ヶ月、上級コース（オンザ・ジョブ・トレーニング）6 ヶ月、合計 11 ヶ月間の訓練を 3 年間で 5 回実施します。現在までに、約 900 人のラオス人が、調理、縫製、理美容、木工の職業訓練の講習を受けました。

閉講式で挨拶する冨永代表理事

～訓練風景　その 1～

中級縫製訓練

この職業訓練を卒業したほとんどの訓練生が起業及び就業を果たし、ほとんどが自宅で開業します。卒業した訓練生に関する沢山のサクセスストリーがあり、中には月に 600 ドルの収入を得る美容職業訓練卒業生もいます、また調理コースでは、日本へ研修に行った人もいます。

2007 年 10 月 8 日から 21 人の選ばれた訓練生が、調理はレストラン、縫製はブティック、理美容はビューティーサロンの店を訓練生自身で運営・管理、実践を通して運営のノウハウを習得していきます。他の 34 人の卒業生は、既に職を得たり、自宅で開業しました。

現在、センターの隣接地に職業訓練の宿泊が必要な遠隔地の生徒を多く受け入れるため、６２名（内講師５名）が宿泊できる寮を建設しており、来年 3 月に完成する予定です。第２期の初級、中級コースは遠隔地の生徒を多く受け入れるため、2 回目の初級コースは 11 月 5 日より開始し、３月末で終わりますが、この第 2 期訓練は通講生を対象にするのは最後です。４月の第３期からは５６名が寮生となります。

閉講式に出席した JICA ラオスの高島所長は、「現在ラオスの経済的状況は大きく変化しており、この市場経済の変化に伴い、さまざまな分野の産業が成長するなかで、この職業訓練で学んだ技術や知識は必ず訓練生の将来に寄与すると信じております。また同時に、良い市民になって下さい。人材的資源はその国の発展にとって大変重要であると思います」と言っていました。

	初級コース	中級コース	上級コース
調理	ラオス・タイ料理と菓子、衛生	日本料理、西洋料理、ビジネスマネージメント	実践でレストランを経営
縫製	運針、ボタンホール等基礎技術、型紙製作、スカート、ブラウス等の製作、工業ミシンの使い方、アイロン	紳士上着、ズボン、サファリスーツ、子供服、ハンドクラフト他	実践でブティックを経営
理美容	シャンプー、ブロウ、マニュキュア、ペディキュア、カット	カット、メイク、マッサージ、フェイスマッサージ、ビジネスマネージメント	実践でビューティーサロンとマッサージ店を経営

☆★☆★☆★☆★☆★☆★★☆★☆★★☆★☆★★☆★☆★☆★

～訓 練 風 景 その2～

①理美容・マッサージ実習

①②③は理美容の訓練です。マッサージ気持ち良さそうですね。日本のボランティア美容師ご寄贈によるマネキンを使ってカットの練習も行っています。ラオスでは規則で高校まで髪を短く切れません、また結婚式に伝統髪方に結い上げるため髪を長くしますので、カットモデルを探すのに苦労します

②カットを学ぶ真剣な眼差しの訓練生

③ドンコイ村で練習も兼ねてヘアーカットボランティアする訓練生

オーストラリア専門家派遣団体（ＡＢＶ）講師による西洋料理の訓練実習。

日本で購入した松花堂弁当箱に調理中級卒業生により製作された和食。とても美味しそうです。今、ＯＪＴレストランで一番人気のメニューで、8～10 種類の品が入り、お値段も約 300 円と安いです。皆様にも一度味わっていただきたいですね。色をお伝え出来ないのが残念です。

☆★☆★☆★☆★☆★☆★★☆★☆★★☆★☆★★☆★☆★☆★

2. ヴィエンチャン職業訓練生徒・講師寮建設（外務省 NGO 連携支援無償事業）

2007 年 6 月 4 日に日本 ODA の NGO 連携無償支援協力事業の調印式を在ラオス日本大使館で行いました。ヴィエンチャン都職業訓練生徒寮建設計画を実施しています。この事業により、現在主にヴィエンチャン都に居住している人が受講している職業訓練を、ルアンパバーン、サワナケート、シェンクアーン県等、他県から訓練生を受け入れることができ、訓練生が同寮に寄宿しながら職業訓練を受けることが出来ます。寮収容人数は 62 名で、55 名訓練生、5 名講師、2 名の障害者が宿泊できます。完成は 2008 年 1 月～2 月を予定しております。この建設事業にあたり、ラオス在住 40 年で、水道の専門家で、特にラオスにおける建設に精通している斎藤誠氏が現場監督を引き受けて下さっています。斎藤誠氏は、73 歳で青年海外協力隊の第一期生で、水道の専門家としてラオスに来ました。この建設事業では適切なアドバイスをしてくださり、また大切な建設の細部にあたる施行を行うための、施行図面を描くことが出来るので、建設が順調に進んでおります。また、この寮の設計を担当した資生堂開発（株）の建築士の太田氏、牧野氏が 9 月 6 日～9 日まで現地を視察しました。

現場監督の斎藤誠氏

来年 1 月～2 月に完成予定の寮

☆ＩＶ-ＪＡＰＡＮ　ヴィエンチャン職業訓練校　宿泊施設建設現場視察☆

―資生堂開発株式会社建設部　牧野成久・太田典志―

寮建設におきまして基本計画検討のお手伝いをさせていただきました。今年、春より実際に現場が着工した事を受け、9 月 6 日～9 日まで、ラオスに滞在し、建築現場確認、仕上げ材料選定等をいたしました。

はじめて、訪れたラオスは、道路や町並みが美しく整備されており、想像していたより開発が進んでいる印象を受け、また、町の皆さんの優しさ、穏やかさが感じられ、日本とは違った精神的な豊かさを実感いたしました。さらにIV-JAPANの方々をはじめ、建設現場の皆さん、お会いする全ての人々が活き活きと楽しそうに仕事をされていることが非常に心に残っています。

今回のラオス訪問の主目的である宿泊施設建設現場視察では、まだまだ建築技術の未熟さが散見されますが、建築に関る設備や材料が日本と比べ旧式ではあるものの、現在取得できる材料を使用したうえで、出来る限りの施工努力、工夫をされており、現場関係者の方々の工事に対するまじめさが、十分伝わってきました。今後は、建築技術・精度の向上、使用設備・材料の整備に加え、作業員皆さんの安全意識の向上が、必要とされ、また、どんどん進展していくのではないでしょうか。また、周囲の町並みと比較して、今回の宿泊施設の計画、ファサードが少し、現地の仕様より贅沢な部分を持っていることは確かに感じました。しかしながら、今後、ノヴォテルホテルからの町並み形成を含め、ヴィエンチャンの町並み形成に対する足掛りとなり、少しでもヴィエンチャンでの建築の仕様向上に寄与できれば幸いです。

さらにこうした、経済発展が人を本当に幸せにしているのかどうか、いろいろ考えるべき点はあると思いますがラオスの子供たちが教育を受けたり、才能を活かす機会を持つ事はラオスのこれからの財産になっていくことは間違いなく、経済発展がラオスの皆さんの精神的穏やかさの阻害になることなく、私たちのお手伝いしたことが、すこしでも役に立てばと思う次第です。

その後、お勧めいただくままに訪れた”古都ルアンパバン”に到着した私たちは、あまりの美しさ

にしばらく言葉を失うほど感動いたしました。日々、町を使用し、更に修復をしながら美しさを保つこの町並みに圧倒されました。この美しい町並み保存は、日本における町並み保存の手法にも見習うところが多いと思われます。出会う人はやさしい笑顔であふれ、工芸品もモダンなセンスでアレンジされた素敵なテキスタイルが町にあふれていて、思わず、大量のお土産を購入してしまいました。

このような素晴しい機会をいただき、本当にありがとうございました。今度は宿泊施設が完成した状況を確認するのを楽しみにしています。決して大きくも無く、贅沢な造りでもありませんが、また一つ、私たちの記憶の中に残る建物が出来上がることを期待しています。

3. 東京ウィルライオンズ支援木工家具コース（初級）（ウィルライオンズ・クラブ 06 年度助成事業）

初級コースにおける訓練内容として、工具の使い方、木材の管理、計算方法等、木工家具における基礎的な指導を行いました。10 名が訓練に参加し、訓練は経験豊かなラオス人講師の下実施され、それぞれの訓練生が、木工家具における基礎知識・技術を学びました。初級コースに作成する家具として、勉強机及び椅子、オフィス用机、会議用デスクを訓練生自ら作成しました。参加した訓練生は木工家具に強い関心を示していました。今後は中級コースを開催する予定で、訓練内容は寮で使用されるベッド、洋服ダンス、食器棚等を作る予定です。

講師の指導を受ける訓練生

木工を学ぶ真剣な訓練生

4. タイ・スリン視察

2007 年 9 月 22 日に 1997 年より当会が支援しているタイ、スリン県ムアンケー村で実施している職業訓練センター（縫製）を視察しました。この職業訓練は同村の女性を対象に、当会から訓練所の建設と工業用ミシン等を寄贈し、安定した収入源の確立を目的に実施されてきました。同職業訓練センターはムアンケー小学校のウィチット先生が調整員となり実施してきました。今回の視察で、同氏より下記の活動報告を受けました。

現在 5 人の村民が職業訓練事業に従事していますが、あくまで村民は農業で収入を得ており、この縫製は副業です。現在は、学校の制服等を作るため、市場調査を行っています。村民の希望によりこの縫製職業訓練はこれからも継続することになりました。
現在、50,000 バーツ（約 18 万円）を投資して、工場で出される布の切れ端を再利用してズボンや T シャツ等を生産する新しい活動として実施予定しています。村民が再利用する布をタイの首都バンコクで購入し、生産から販売までを村民自身が行う直売方式です。上記事業の助成金申請をウィチット先生より IV タイ財団支援金申請を受けて、財団は資金貸付を行う予定です。

この視察に先立ち、バンコクでタイ財団の理事会が開催され、前年度の事業報告、会計報告、監査報告が行なわれ、承認されました。また、今年度の奨学金支給先が協議され、当会よりタイガールガイド連盟に生徒 20 人の奨学金、ピブンソンクロー財団にも 20 人の奨学金をタイ財団を通してそれぞれ寄贈しました。

ＩＶ－ＪＡＰＡＮとの出合い　　石田　望（ガールスカウト神奈川第 20 団）

私達夫婦は東南アジアを毎夏訪れており、１２カ国目の訪問国を、何処にしようかとインターネットで検索するうちに、ラオスのＩＶ－ＪＡＰＡＮのホームページにたどりつきました。代表の冨永さんがガールスカウトでいらしたことを知り、私もガールスカウトに関わっているという理由だけで、不躾にもメールを送り、訪問したい旨などを伝えました。いくつかのＮＧＯにもメールを送りましたが、快く承諾くださり、開襟を開いて相談に乗って下さったのが冨永さんでした。

メールのやりとりの中で、富永さんは、次々に私の希望を現実にしていくので驚くばかりでした。見ず知らずの私に、自分のできることを惜しみなく与えて下さる、そのお人柄に感銘を受けました。冨永さんのメールが受信されるたびに、人を思う優しさにあふれていて、暖かな気持ちになりました。もし富永さんにご配慮頂かなければ、ラオス訪問は全く別のものになったと思っています。

ラオスに出発するまでに、私はガールスカウト神奈川県第２０団、２団、西湘南地区レンジャー部門（高校生）福祉プロジェクトの皆さんにお願いをし、絵本にラオス語を貼り付け、冨永さんの学校建設時にお役に立てて頂こうと準備をしました。子ども達とご両親が力を貸して下さり、大切にしていた絵本にラオス語の印刷文を貼り、まだ見ぬラオスの友達への贈り物を作りました。

8 月 4 日にビエンチャンに着き、5 日には最も楽しみにしていた、ＩＶ－ＪＡＰＡＮの調理トレーナーのニョッドさんの家にホームステイしました。

ニョッドさんは、目の大きなスタイルの良いキュートな女性で、家は町中からバスで３０分の郊外の村にありました。家族は、両親、ニョッドさん、妹、弟、従兄弟（ＩＶ－ＪＡＰＡＮの縫製コースの研修生）で、お母さんは国道脇の屋台で果物を売り、お父さんは農作物を育てていました。私達が屋台に行くと、お母さんの親戚、友達がいろいろな物を持って集まって来て、甘い甘いパイナップルや龍眼など食べながら、笑いの渦に巻き込まれていきました。親戚の子どもを皆で育て、食べ物を皆で分け合う「ラオス」がそこにありました。

ニョッドさんは、市場で私が興味を持って覗いたおかずを、すぐに買うなど、きめ細やかな配慮をする女性でした。夕飯には魚をさばいて３０分以上もたたいて生の魚料理やおかずを 3 皿作り、薪を燃やしてもち米、スープも作ってくれました。床にゴザを引き、小さなちゃぶ台を家族で囲み、おかず手で丸めたもち米に付けて食べました。伝統的な料理というのは、その国の独特の味覚があり、家庭の中にあると実感しました。

子ども達はご飯を作り、掃除をし、屋台の手伝いもし、また朝 6 時から屋台で売るとうもろこしの下準備もし、手があくと誰かが床をほうきで掃いていました。助け合うことが当たり前である生活ぶりに、私達日本人が置いてきてしまった忘れ物を見つけた思いがしました。

６日に、ＩＶ－ＪＡＰＡＮを訪問し、冨永さんにお会いし、その仕事への情熱に圧倒されると共に、自分の思いを実現するパワーを頂いたように思います。調理、美容、理容、裁縫、木工と、手に職を付け、自立をと願うＩＶ－ＪＡＰＡＮの運動を目の当たりにしました。研修生が、伸びやかにゆったりと学んでいる姿は、ほほえましいでした。調理の研修生は、私達に気軽に「一緒に昼ごはんを食べませんか」と声をかけてくれ、ここでもワイワイガヤガヤ、楽しい時間を頂きました。

７日は、早稲田大学の学生と共に、ＩＶ－ＪＡＰＡＮの活動内容の説明を受け、ニョッドさんの指揮の元、調理研修生が作ったカツ丼を食べました。早稲田の学生は、私達が毎夏、東南アジアの貧しい人々、障がいのある子ども達との出会いを求めて出かけることにも関心を持ち、次々と質問をしてくる姿勢にも心動かされました。

冨永さんの回りには、聡明なスタッフ、笑顔の研修生がいて、いつも明るい。ラオスは、「分け合う国」でした。分け合えばもっとのんびり豊かに生きられるよという声がラオスから・・・。

（聖ヶ丘教育福祉専門学校　非常勤講師
神奈川県立総合教育センター　言語聴覚士）

石田ご夫妻と冨永代表

※創立 20 周年記念事業チラシ

創立20周年記念事業

チャリティーコンサート＆ラオス事業報告会

ສະບາຍດີ
（こんにちは）

ສະບາຍດີ ບໍ
（おげんきですか）

～優しいいやしの国ラオス～

メコン川

おかげさまで2008年5月1日でIV－JAPANは創立20周年を迎えます。
1988年にタイの国際協力から始まって、1994年からは隣国ラオスへの援助も始まりました。これまでの皆様のご支援に感謝するとともに、より一層のご理解をいただけますようラオスの事業報告及びラオス青年民族舞踊団を招聘しチャリティコンサートを開催します。ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

《場所・日時》：（1）東京会場…ＪＩＣＡ地球ひろば講堂（予定）地下鉄日比谷線広尾駅Ａ3 出口より徒歩１分
５月２４日（土）　午後１時３０分開場
午後２時～４時（報告会、舞踊、ファッションショー）
午後４時３０分～６時（記念パーティ・会費制）

（2）埼玉会場…かわぐち市民パートナーステイション　ＪＲ京浜東北線川口駅東口徒歩１分
５月２５日（日）　午後１２時３０分開場
午後１時～３時
（会場では写真の展示も行いますのでどうぞご覧下さい。）

《入場料》：東京会場…２，０００円
埼玉会場…１，５００円
（収益金は（特活）国際協力 NGO・IV-JAPAN に寄付します。）

主催：IV-JAPAN 創立２０周年記念行事実行委員会
協賛：ＪＩＣＡ地球ひろば
後援：（財）埼玉県国際交流協会

ラオス青年民族舞踊団

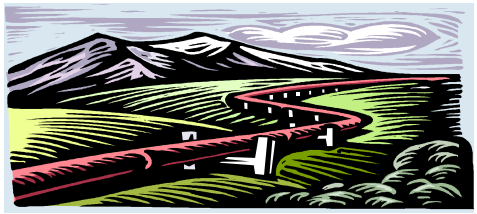
東京会場に於いて5月20日～24日まで
ラオス民芸品の展示即売も行います。

●お申込み・お問合せ：創立２０周年記念行事実行委員会
tel 048-622-8612　fax 048-625-0271
Email: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
実行委員長：藤田独枝　tel 048-734-4755
募金委員長：雷山光恵　tel 090-4416-6113

5. シェンクアーン事業

水が来て喜んでいる村民

2007 年 3 月にオーストラリア大使館補助金事業により支援を受け実施した「シェンクアーン県カム郡ナーパイ村飲料水パイプライン建設事業」が同年 8 月に終了しました。この事業の目的は、乾季の間（11 月から 4 月の 6 ヶ月間）井戸が枯れてしまい、水不足に苦しんでいる村民に山から水を引き、1 年を通して水を供給することです。事業の総額費用は、約 10,000 ドルで、内訳はオーストラリア大使館の補助金が 5,600 ドル、村民の寄付の 4,400 ドルで実施されました。村民の 4,400 ドルは、収穫して売った農作物の利益で賄います。村民は水を管理する実行委員会を発足し、システムの維持費については、当会が実施している家畜銀行で得た利益を当て行っていきます。この事業により水不足が解消され、またきれいな水を得られるので衛生面において子供たちの健康に大変寄与しています。地方の遠隔地におけるインフラ整備として、村民がもっとも望んでる事が“きれいな水”であります。村民はこの支援を大変喜んでおり、村民はこのパイプライン建設事業に労働や建設費を出し合い、協力したことにより、村で共同体しての連帯感がより強くなりました。



@日本では蛇口をひねれば正しく“湯水の如く”当たり前が、現地では一滴々が貴重な力水となります@

水浴びをする村の子ども

6. 千客万来

様々なお客様が当会のラオス事務所、ヴィエンチャン都職業訓練所を訪問されました。（敬称略）

3 月　・シモン ABV、外務省評価委員会一行合計 10 名、日本ロジテム社長他 4 名。
4 月　・アトリエ E&M　仙田　實・高橋正行、小泉・竹村
5 月　・空港サービス　山田、村山幸子ご夫婦、武居次長（JICA）
6 月　・Mr.Sowchit(AVB)、山田千晶（ADRA）
7 月　・OCC ラッタナ部長、WIG アニタ編集長、早稲田大学西村教授、
ケムサット・ピラパンデット/大塚　島谷正寛・磯貝昌宏・内　田、カルメン・ロレイン、
Ms.Shalini　Goel(（インド大使夫人)、上田義朗（流通科学大学教授）
８月　・野中　光（琉球大学学生)、早稲田学生 34 名＋引率（西村教授他)、
石田　望（ＧＳ神奈川第 20 団)、石田崇男（秦野市立渋沢中学校)、
学習院大生（4 名)、風間、寺島、松島（ＧＳ東京第 33 団）
9 月　・東芝国際財団塩野明事務局長、
MIWA 藤澤基邦、BDL 藤澤武蔵
ラオジャパン・エンタプライズ岩木かずお
10 月　・高島宏明 JICA ラオス事務所長　　徳永清朗　日本人会会長、
山田千晶　同理事、内田映三　同元会長、嶺井南勝　同元理事、
ボランティア美容講師　堀井雅由美・磯畑雪絵

右写真ＧＳ神奈川第 20 団によるラオス語翻訳版貼付けボランティア→

7. 第４回　通常総会開催(於 さいたま市生涯学習総合センター)

6 月 16 日（土）に通常総会が開催され、以下の事項について審議を行い承認されました事をご報告いたします。

- 2006 年度　事業報告・決算報告　支出合計 1,758 万円（承認）
- 2007 年度　事業計画・予算　　4,319 万円（承認）
- 会創立 20 周年事業開催について　　実行委員会を組織し、ラオスと日本の両国で実施する。
  ラオス：2008 年 3 月　職業訓練生徒寮ハンドオーバー式に於いて 20 周年式典及び日本文化紹介を行う。
  日　本：2008 年 5 月　20 周年式典、ラオス事業報告会、ラオス民族舞踊団を招聘しチャリティコンサート及びファッションショウを東京 JICA 地球ひろば、埼玉川口の２ヶ所で行う。

＜２００６年度事業報告概要＞

1. 日本全国より奨学金ドナーを募り、タイ、ラオスの子供たちとラオスの職業訓練生１９７名に奨学金を支給し、教育の底上げに寄与した。
2. ヴィエンチャン職業訓練所ではラオス住民の経済的自立支援のための職業訓練を実施した。基礎コースの理美容、調理、縫製の３分野を開催。（株）資生堂協力事業。
3. 青少年のためのスポーツ教育振興（彩の国さいたま国際協力基金）：ヴィエンチャン都内の学校の校庭にバレーボールコート兼バトミントンコート兼セパタクローのコートを建設し、併せて同スポーツのワークショップを教員対象に行い、スポーツを通じて青少年の健全育成を行った。
4. 東京ウィルライオンズクラブの支援によりヴィエンチャン職業訓練所において家具職業訓練基礎コースを実施した。
5. 職業訓練を兼ねた小学校建設：ノンドン村（ジャパン・ヨガカレッジ寄贈）
   ニャンカオ村（山梨ラオス友好協会　柳生晨策氏寄贈）
6. シェンクアーン県山岳民族生活改善のための村落開発（国際ボランティア貯金配分金）：経済的自立のための米・家畜銀行の運営、動物飼育、果樹栽培等の農業指導等行った。05 年度継続事業。
7. シェンクアーン県へ日本人農業専門家・後藤生光氏を派遣した。（JICA・NGO 技術者派遣事業）
8. 松島精一氏寄贈により、シェンクアーン県ナーパー中等高等学校図書館建設及び図書館ワークショップを実施した。
9. 東芝国際交流財団助成で第 9 回日本文化紹介をヴィエンチャンで開催。300 人のラオス人が参加し日本への理解を深めた。
10. その他：第 9 回ラオスワークキャンプ開催（早大生 21 名）。第 9 回成人会員スタディツアー実施。

8. 国内ニュース

―埼玉県富士見市立諏訪小学校６学年共同授業―

５月１６日、日本へ帰国中の冨永代表が講師として招かれ、６年生を対象にラオスの現状について講義を行いました。生徒たちから鋭い質問もあり、関心を持って授業に集中していました。右の写真はその時の様子。

―経済同友会ＮＧＯシンポジウム―

５月２２日、東京・帝国ホテルにおいて、『企業とＮＰＯ：社会変革（ソーシャル・イノベーション）への挑戦』と題して、シンポジウムが開催され冨永代表が出席しました。企業経営者とＮＰＯ関係者が一同に会し、全地球的課題や社会的課題への解決策を提示し、企業とＮＰＯとの協力・連携の可能性について、前向きで建設的な議論が行われました。招待者としてＮＰＯ関系５０団体が参加し、案内ブースも設けられました。

―日本ユニフェム講演―

６月 18 日渋谷で全国から参加したユニフェム（国連女性開発基金）日本国内委員会のラオス．カンボジヤ．スタディツアーの参加者を対象に「ラオスの女性」について冨永が現状報告をしました。同団体はラオス手工芸協会の織物村開発事業に財政支援しており、今回は創立 10 周年記念行事として同事業視察に 25 名の会員が出かけました。冨永の最新ラオス事情に質問も多く出され、ラオスでの再会を楽しみに別れました。

後日談：11 月 1 日にラオスで再会し、同夜の慣例のファッションショウにも 6 名の代表がラオスのドレスを着て

出演しました。冨永は着物とラオスの帯に日本髪のかつらを着けて登場し、大喝采を浴びました。

―2008年G8洞爺湖サミット―

来年、「主要国首脳会議」（G8サミット）が北海道洞爺湖で開催されます。このサミットに向けて「2008年G8サミットＮＧＯフォーラム」が結成されました。設立趣旨は、政府とは違った視座で蓄積してきたＮＧＯ独自の知見と充分な情報に基づいて、政府に対して地球規模の課題の解決に向けた合理的な提言を行うことで、市民社会として必要な責任を果たして行くことです。貧困・開発、環境、平和・人権の 3 つのユニットがあり、当会は貧困・開発ユニットにサポートＮＧＯとして登録しております。100 団体を越す日本の NGO が参加した初めてのケースです。

9. 幸子のラオス便り NO. 15（2007年9月30日）

90 歳の母を伴って 3 月にラオスに戻りました。最後の親孝行かなと思い、土日はいろいろと連れ出し、ありがたいことにラオス人の友人たちが一緒に車で案内してくれます。地球の歩き方にも載っていないラオスの秘境？「グランドキャニヨン」や郊外の織物博物館等、また 4 月のラオス正月はルアンパバンまで足を延ばしました。お正月行事を毎日体験し、また、ラオスの人は年寄りを大事にしますので、いつも誰かが母の手を取ってくれて、母は最高に幸せでした。お正月の托鉢は 200 人のお坊さんでお布施の用意も大変でしたが、友人がすべて整えてくれて、信心深い母は同い年の 90 歳のお坊さんが来たときには感激していました。私が転んで骨折したために 2 ヶ月と 10 日という早めの帰国となりました。
ラオスのマッサージが利いたせいか、日本では腰痛がなくなって、またラオスに来たいといっています。が、蟻や蚊に刺されてだいぶ悩まされましたので、それが解決しないとラオスに来る決心が鈍るようです。

―あるラオス難民の死―

一時帰国中の 6 月 11 日にとても親しくしていたラオス人の友人Ｙさんが亡くなりました。彼女は革命前は公務員だったことから革命政府につかまるのを恐れて、対岸のタイにメコン川を泳いで渡り、難民キャンプを経て日本にやって来ました。日本でやはり帰国できなくなったラオス留学生と出会い結婚し、2 人の子供に恵まれました。その後離婚しましたが、前夫からは「僕は利用された。」と聞かされましたが、とにかく彼女は 2 人の子供を育てるために一生懸命働きました。お葬式の日に妹さんから、離婚しても絶対に泣かない人だったが、6月10日に病院へ行ったときは初めて涙を流し、「早くあちらに行きたい」と死期を覚悟していたようです。5 月 18 日に入院してあっけなく行ってしまいました。6 月 11 日にお見舞いに行く約束でした。8 月に 6 年ぶりにラオスへ帰るのを楽しみにしていました。
工場で働き詰めの毎日でしたが、私が帰国するとラオス料理を作ってくれて、「老後は一緒に大宮の市営団地に住もう、家賃はとても安いよ」と一人住まいの私の心配までしてくれていました。
オーストラリアや欧米に渡ったラオス難民はこのごろラオスに戻る人が多く見受けられますが、定住地では自宅を持ち、子どもたちには高等教育を受けさせ、日本の難民とは生活基盤や経済状態がだいぶ違うようです。年金が支給されるようになったらラオスに住みかえている難民が多いようです。Y さんのご冥福をお祈りいたします。

ラオスから見たメコン川

―インドの夏休み―

10 年ぶりに 12 歳からのインドのペンフレンドを訪ねました。外務事務次官で引退したご主人がアルナチャル・プラデッシュ州知事としてインドの辺境の地に赴任しています。外国人の入国が制限されている地域なので、思い切って訪問しました。チベット、中国、ミャンマー国境に接していて、顔つきは日本人そっくりで、仏教徒が多いところで、違和感なく過ごすことができました。おりしもご主人の次の任地がラジャスターン州となり、2 日間の離任挨拶に同行させてもらい、山の多いところなのでヘリコプターで各地を訪問し大変な歓迎を受けました。天候不安のため川の上をスレスレに飛んだり、雨が止まなければ今夜は地方どまりかと覚悟したとたんに 10 分くらい空が晴れて、無事州都に戻れたときは皆でキャプテンに拍手を送りました。
今回の一番の目的は 89 歳の友人のお母さんにお会いすることでしたが、もう私のことは思い出せないようでした。皆さんにいただいた数体の仏像や仏画の掛け軸はラオスの自宅に大切に飾り、2 年前の交通事故からおまけの人生を生かしてもらっている事に感謝して毎日手を合わせることが習慣になりました。

カノック奨学金ドナー紹介　（2007/3/1 から 2007/10/31 まで）順不同

斉藤ふみ子、高見沢啓二、原　朗子、國仲ヒデ（２口）、利根川恵子、森田豊則、吉原喜代、廣田康伸、上原道子
藤田カツノ、荒井みど里、平田正利、羽山陽子、渡久地澄子（３口）、森　典子、服部順子、大久保芳子
木暮秩・道子、杉浦美佐子、James A Cummings、五十嵐香苗、春日　曠、大橋國江(２口)、沖野和利(５口)、
竹中成行、稲葉純子、佐藤美津子（７口）、小林文子、今井京子、藤井清司、飯田昌美、松永順平(３口)、大高　巽
栗原敏子(３口)、片山純子(２口)、高田久雄、片岡啓子(２口)、宇野　薫、ウイメンズめぐろ有志、塚崎みち子(３口)
さいたま市立植竹中学校、ボランティアグループまどか有志(４口)、岩谷良秋、賀元澄子、町田　裕、戸田昌子
山口将行・洋子、北條鎮雄、岡庭史子(２口)、島　慶子、池田涼子、キッズ＆ベビー保育園、小林　彩、
村本律子(３口)、熊野恵一、市川交子(２口)

運営・プロジェクト費寄付者一覧
（2007/3/1 から 2007/10/31 まで。一万円以下は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

（財）埼玉県国際交流協会(５０万円)、ガールスカウト東京第３３団(４５万円)、倫理研究所（１０万円)、
東京ウィルライオンズ（１０万円)、斉藤加代(１０万円)、 渡久地澄子(１０万円)、栗林　聡（１０万円）
高見沢啓二(２万円)、ガールスカウト大阪第６１団(１万円)、沖野和利(１万円)、村本律子(１万円)、
土屋エミ子(１万円)、早稲田大学西村教授（１万円)、石田望・崇男（1 万円＋＄50）　　敬称略

編集後記　ー日本事務局より近況ー

いつのまにか猛暑も記憶の彼方へとなりました。皆様には日頃より当会の活動にご理解とご協力を頂きまして心より感謝申し上げます。さて、ＩＶ－ＮＥＷＳ今回も情報満載ですが、発行が遅れやっと皆様のお手元へお届けできホッと一息です。記事の編集はラオス事務所で行い（一部日本事務所)、印刷、製本、発送は日本事務所で行っています。通常日本事務所は平日の月、水、金曜日開いており、事務局員１人が勤務しています。会報発送時には事務所近所のボランティアの方がお手伝いに来て下さり、とても助かります。現在事務所に隣接しているビルの解体工事中で、日中はこのＩＶ事務所も解体されるのではと思うほどの振動です。でも東側に陽のめを見る事が出来るようになります。しばらく我慢ガマン。お隣のお宅（ここは同様の借家が１１軒並んでいます。窓はサッシではないので錠前です。懐かしい！）では親猫、子猫が数匹（もっと？）いますが最近「うるさいニャー」と言う声がよく聞こえてきます。シトシト雨の日はそんな鳴き声も妙に安らぎを与えてくれます。

＜お願い＞
今年も二桁の月になりました。カノック奨学金ドナーの皆様には現地生徒の手紙をお届けする時期が近づいてきましたが、今年度は昨年度に比べ、ドナー数が３０名ほど不足しております。いつもお願いばかりで恐縮ですがご寄付いただけますと幸いです。送金方法は下記サポート会員募集欄をおご覧下さい。どうぞ宜しくお願いいたします。
＜物品収集について＞
書き損じ葉書、テレホンカードの送付をお願いしておりましたが、新たにご家庭でご使用のプリンターの「使用済みインクジェットカートリッジ(純正に限る)」の収集もしております。物品収集の送料については、引き続きご負担をお願いいたします。

＜サポート会員募集＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を、宜しくお願い致します。

① 奨学金ドナー　　年１口　12.000 円以上
② 国際協力費又は運営費ドナー
　※個人　　年１口　 3.000 円以上
　※団体及び法人 年１口　10.000 円以上

・申込方法(銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下４桁の明記をお願い致します)

郵便振替　:（口座番号）　00140-5-537168　（加入者名）カノック奨学金
銀行振込　:埼玉りそな銀行浦和中央支店
（普通）　口座番号:5038052
名義人:（特非）国際協力 NGO・IV－JAPAN

【特定非営利活動法人　国際協力ＮＧＯ・IV-JAPAN】

日本事務所
〒331-0058　埼玉県さいたま市西区飯田 426
TEL:048-622-8612 / FAX:048-625-0271
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp

ラオス事務所
P.O.BOX 7920 VIENTINE, LAO P.D.R.
TEL/FAX: +856-21-26-1240
E-mail: ivjapan@laopdr.com

http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/